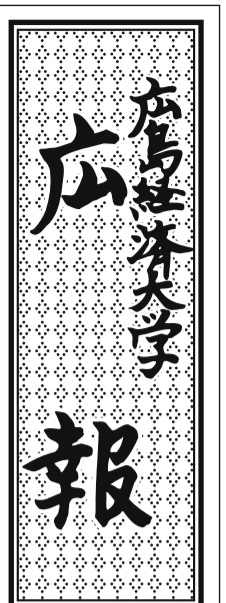


卒業生と語る「興動館教育プログラム」の未来



学長 石田 優子
 広島県警察 西川 貴裕 経営学科 2010年3月卒業 子ども達を守るプロジェクト
 ダイキョーニシカワ株式会社 上田 真弘 経済学科 2019年3月卒業 島島の魅力を発信したい学生プロジェクト
 有限責任監査法人トーマツ 中藤 咲良 メディアビジネス学科 2016年3月卒業 インドネシア国際貢献プロジェクト
 興動館 科目創造センター長 濱田 敏彦
 興動館 館長 プロジェクトセンター長 石田 真英



発行所
 広島経済大学
 広島市安佐南区祇園
 五丁目37番1号
 郵便番号731-0192
 電話番号 (082) 871-1000(代)
 オフィシャルサイト <https://www.hue.ac.jp/>

2面 これが私の集大成
 3面 2023年度学位記授与式挙行/随想
 4面 アカデミックの扉/私のゼミナール雑感
 5面 2023年度進路・就職支援を振り返る
 6面 2024年度入学試験結果

学長 文部科学省は「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の中で、価値を創造する力や対立を克服する力などが、これからの時代に必要だとされており、これはまさに「興動館教育プログラム」で目指してきたものだと感じます。今日は、かつて興動館で学んだ卒業生から、身につけた力が社会で役立っているか聞き、これからの興動館教育を考えたいと思います。

学長 西川さんが大学時代に参加したのは、地元で発生した事件をきっかけに、活動内容に関心を持ったからです。こういう活動もあるんだ、自分にもできることがあるかもしれない、と考えることができました。活動の中で防犯のことを本気で勉強しましたし、活動が評価されて呼ばれた東京の表彰式で発表した経験では度胸も身につきました。僕は公務員を目指して、警察官は選択肢のひとつだった。でも、今思えば、何かの縁とかが面接で活きたし、積み重ねた経験が自分の道を拓いていったように感じます。警察官になって数年後、普段褒めたりしない父がふと「お前には警察の仕事が一番合っている」と言ってくれました。嬉しかったですね。

濱田 彼はもともと誠実で、個性的なメンバーをまとめる資質がありました。活動を通じて、それを磨き、子どもに限らず、社会を守るという気持ちを積み上げた結果が、今につながったんだと思います。

西川 先生たちや仲間のほうが、僕のことをわかっていてくれたような気がしますね。今は、この仕事をしたいという自分の姿は想像できませんから。

学長 中藤さんは地域企業の支援等をお仕事にされていますが、興動館での経験が活かしていると思うことはありませんか。

中藤 現地活動の最終日、村の方から「皆さんから見ると古い家で畜舎を育て暮らす生活は貧しく見えるかもしれないが、家畜がいり、家族がいて、家畜がいて、私たちがとても豊かです」と伝えられハッとしました。自分たちは良いことをして、こちらの都合で、自分の満足を押し付けているような側面が少なからずあったことに気づいた瞬間でした。この言葉は、支援者という立場で仕事をする今も教訓に思っています。相手の視点に立って考えることを心がけています。

学長 中藤さんのプロジェクトは人数が多かったから、価値観の違いを乗り越える経験は他にもあったのではないのでしょうか。

中藤 メンバーのモチベーションの差や価値観の違いは、渡航に限らず日本での活動中の課題でもありました。私は当初、やる気がいらないかと思ったのですが、仲間や教職員の方、特に同級生のリーダーの存在で少しずつ変わっていきまし。彼が、それぞれが持つ強みや個性が発揮できる雰囲気やチームづくりを大事にしてきたことで、私だって完璧じゃない、助けてもらっている、そう気づいてから良い意味で肩の力が抜けた。多様な社会を生きていく上で、この感覚はとても活かしていると感じています。

学長 上田さんは営業の仕事ですが、大学で身につけて良かったと思う力はありますか。

上田 自分で一歩踏み出す姿勢でしょうか。私は2年次になった頃、何をしたらいいかわからなくなった時期がありました。そんなとき興動館が募集していた「サイパンでのリーダー研修」を知り、思い切ってひとりで参加を決めました。この経験が衝撃だった。それまでの自分はあまり人と関わろうとしなかった。でも、活動を通じて、自分が作ったものをアウトプットして周囲に伝え、フィードバックをもらう経験をしました。自分が出したものが、新しいものになって返ってくる。強い意志や向上心を持った人がたくさんいて、自分ももっと他者から学ぶべきだと気づきました。

学長 主体的に取り組む姿勢が大事

学長 これからの興動館について、興動館を牽引するお二人にお伺いします。

濱田 学生がもっと興動館科目を履修するよう、魅力的な科目の創造や周知に努めます。興動館ではプロジェクトで必要となる知識の修得に特化した科目なども用意。また、興動館科目以外の専門科目にも、学生の活動に役立つものが多くあります。

中藤 社会人になり、あの頃もって授業を受けておけば良かったと思ってしまう。自分の知識不足を感じればすぐ隣で学べたり、質問できる環境があったので。仕事では幅広いスキルが必要なのもあり、やはり大学の環境の良さは実感しますね。

濱田 中藤さんの言葉を、学生に伝えますね。また、もうひとつ夢があります。興動館では、文部科学省がアクティブラーニングを提唱する以前から、長い蓄積があり、科目を担当した教員の経験や知識をまとめ、「興動館モデル」のようなものを作って全教員に還元。共有することで、本学全体の教育のさらなる向上に貢献したい。これからは、主体的な学びが一層重要になります。学内のみならず、地域の高校などと教育機関と協力して、興動館から発信できれば、社会貢献にもつながると思います。

石田 プロジェクトについては、「とりあえずやってみよう」という段階から、何のためにやるのかという目的を意識して行動することが重要な段階に入ってきたと思います。例えば、今日ゴミ拾いをして満足、というのが落ちていない未来を目指して、どう達成していくべきか目標を立てる。社会課題の根本的な解決を目指して挑戦していくことが、彼らの活動をより良いものにすると思います。目的に向かって目標を決め、しっかりと計画を立てて行動をスタートする。そこまでしてうまくいかなかったら、悔しい。なぜだろう、と真剣に振り返る中で、改善点を見つけ出せます。

学長 私も興動人の説明をするとき「緑の大地を夢見て、荒れた大地に最初のクワを振り下ろすことのできる人」という例え話をします。目的は足元を耕すことではなく、緑の大地です。

石田 緑の大地が目的なら、クワで耕した次にやるべきこともほとんど見えてきます。学生も活動の目的があれば、いろいろなアイデアを出せるでしょうし、それに向けて「自分はこう動きたい」という気持ちも沸き上がってくるでしょう。自分が動けば、ゼロから立ち上げることに繋がります。社会で活躍するのはそういう人だという信念を持って、学生のための研修などにも力を注いでいきます。

西川 僕らの頃には、そういう研修はなかったから羨ましいな。

石田 西川さんたちが苦労したのを見て、支援を始めました。こうしてみると、皆さんと一緒に、興動館を発展させてきたのだと感じますね。

後輩へのメッセージ
学長 では、最後に、卒業生の皆さんから後輩にメッセージをお願いします。

上田 自分で一歩踏み出してください。大学4年間は、新しい自分を探したり、自分はどういう人間なのかを知らずには過ごさないでください。広島経済大学には、経済学を学ぶのはもちろん、今までの自分の領域を破る一歩を応援してくれる環境があります。周りには同じ気持ちの



子ども達を守るプロジェクトによる下校安全サポート



インドネシア国際貢献プロジェクトの現地販売活動

上田 自分で一歩踏み出してください。大学4年間は、新しい自分を探したり、自分はどういう人間なのかを知らずには過ごさないでください。広島経済大学には、経済学を学ぶのはもちろん、今までの自分の領域を破る一歩を応援してくれる環境があります。周りには同じ気持ちの

興動館教育プログラムとは
 広島経済大学では、次代を担う「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目指して、本プログラムは興動人が備える3つの力のうちのひとつである「人間力」の養成を目指すものとして、2006年よりスタート。互いに学びあう双方向型授業の「興動館科目」と学生主体の活動である「興動館プロジェクト」で構成されており、本学の個性を活かしたユニークな取り組みとして評価を得ています。詳細は本学のサイトをご覧ください。



詳しくはこちらへ



これが私の集大成

大学生生活4年間の総仕上げとして作成する卒業論文。本学では全ての学生が卒業論文に取り組みます。ここでは執筆を通して成長した学生たちの様子を紹介します。

Report 1 「女性スポーツ」に1年次から関心を持って



岩本 綾乃さん
2024年3月スポーツ経営学科卒業
広島県/広島観音高校出身

「生活が充実した」が上位に挙げられ、精神的な効用が大きいことがわかりました。もともと私は1年次のときに読んだ本をきっかけに「女性スポーツ」に関心を持ち、研究をスタート。学内の学生懸賞論文や学外の学会に論文を投稿し、力をつけてきました。3年次にカナダの育児期女性に関する研究を行ったことから、卒業論文ではゼミ指導教員の岡安功先生からの助言も得て、日本の育児期女性に着目しました。

幼稚園児の子どもを持つ女性を対象に、運動スポーツ実施の意向と行動を明らかにする研究を行いました。その結果、運動・スポーツをしたいと考える計画は立てるが、実施できていない人が多いことが見えてきました。阻害要因としては「家事や買い物で時間が無い」「子どもがいるため時間が無い」が上位に入っています。また運動・スポーツ実施の効用としては「気分転換ができた」「ストレスを解

JUMP UP

TOMODACHI-U.S. Embassy Go For Gold スポーツ・リーダーシップ・プログラムに日本人学生10名のうちの1名に選出された。1年次から続けてきた語学勉強や論文の執筆、ボランティア活動などが評価され、難関を突破。ロサンゼルスとニューヨークで2週間の渡米研修に挑んだ。アメリカのスポーツ産業、リーダーシップの成功事例を直接学んだことで将来、スポーツ産業に貢献しようとする人材を目指している。

Report 2

オープンキャンパスでの経験が卒業論文の原点



渡邊 丞さん
2024年3月経営学科卒業
愛媛県/今治南高校出身

オープンキャンパスで受けた広告に関する卒業論文のアンケートのことを思い出しました。当時の私にとってそれは衝撃的でマーケティングと広告が繋がったきっかけになりました。あのときの先輩の姿が今も私の憧れであり、この論文の原点になっています。卒業論文を書くにあたって、これまで先輩たちがどのような論文を書いていたのか過去数十年分の優秀論文を図書館で読むことから始めました。そのうえで疑問に感じたことを調べ、そこから新たな疑問を見つけ、さらに調べていきました。そして、消費者が広告に抱く感情はさまざまなために「憧れ」に注目し、広告に有名人を起用することの二面性について研究しました。まずはマーケティングに関する論文を書こうと考えたとき、高校時代に広島経済大学の

Report 3

正しく伝えたいことは正しい言葉づかいで

「卒論のテーマ」購買意思決定に憧憬性を与える影響に関する実証研究：広告への有名人起用の二面性



濱田 祐馬さん
2024年3月ビジネス情報学科卒業
広島県/呉青山高校出身

まずは自分が使用するAIや研究対象となるサステナビリティ分野について学ぶことからスタートしました。大まかなステップとしては、基礎学修、実験、評価、執筆といった流れで行いました。基礎学修で研究における土台作りを取り組み、実験では、基礎学修で得た知識を基に、データ収集やプログラムの作成や実験を行える体制を整えました。評価では実験結果に加え、プログラムやモデルをさらに改良するか判断しました。このステップが最も時間がかかり、大変な作業でした。思うような実験結果が出ないときや新しい技術を活用するとき、研究の意図や目的を見失いそうになりましたが、ゼミ指導教員の石野重耶先生や他のゼミ生からアドバイスをもらって、試行錯誤しながら乗り越えることができました。

JUMP UP

年金積立金管理運用独立行政法人主催のGPIF Finance Awards for Studentsで研究発表を行った。卒業論文の内容をブラッシュアップさせ、近年注目されているAI技術である大規模言語モデルを活用し、ESG評価を自動で行う手法を提案。また、第32回人工知能学会 金融情報学研究会においても研究発表を行い、学外での経験も積んでいる。

「エディオンピースウォール」設置企画に携わる

1月31日、エディオンピースウォール広島において、巨大壁画「ピースウォール」の除幕式が開催された。世界的な人気サッカー漫画「キャプテン翼」のストーリーから、世界平和と宣言のスピリットを広島風アレンジして描かれた巨大壁画。この「ピースウォール」の設置に、本学スポーツ経営学科濱口博行教授がプロジェクトメンバーの一員として関わった。



完成したピースウォールを前に笑顔を見せる濱口博行教授

学務センター スポーツ支援課設置

4月1日、本学はスポーツ団体(部・サークル)に所属する学生、またはスポーツ関連全般に興味のある学生に対してキャンパスライフ及びデュアルキャリアに関して総合的なサポート業務を行う「学務センタースポーツ支援課」を設置した。学生たちはスポーツ関係全般の支援や指導を含めた情報提供が受けられるだけでなく、学業やキャンパスライフの悩みを相談でき、運動面や栄養面などのアドバイスを受けることもできる。また、同課は指導者や関連部署、地域等と連携し、スポーツを通じてキャリアアップについても推進していく。



学生の相談に乗る赤澤康正スポーツ支援課課長
課長を兼任する赤澤康正次長は「大学スポーツを通じて友人や教職員との交流により、人間力育成や支える大学生活を支援する部署です。主体的に考え、行動できる学生の育成を担い、皆さんをサポートしていきます」と決意を新たにしました。

2023年度 学位記授与式挙行

3月19日、上野学園ホール(広島市中区)において、2023年度学位記授与式が挙行された。経済学部261名、経営学部318名、メディアビジネス学部118名、大学院12名に学位記が授与された。

それぞれの学科及び大学院の代表が壇上に上がり、石田優子学長から学位記を受け取った。同時に教職員免許状授与式も行われ、免許状が授与された。続いて、学業に優れた



他学生の模範となった卒業生に学賞と優秀賞が贈られた。多くのご家族や来賓、教職員らが祝福するなか、卒業生は新たな門出の祝福を受け、式は緊張のなかにも和やかな雰囲気の中に終了した。

式終了後には謝恩会が5年ぶりに制限を設けない形式で実施され、教職員や卒業生同士で語り、別れを惜しみながら新たなステージへと巣立っていった。

巣立ちの言葉

～学びと経験、すべてに感謝を込めて～

message

多くの人に
支えられていることに
感謝の気持ちを忘れずに



新川 晴也さん
2024年3月経済学科卒業
広島県/崇徳高校出身

私は、小学4年生でバレーボールを始め、広島経済大学の素晴らしい監督のもとでもバレーを続け、大学4年間を通して人間力も高めたいと考え入学を決めました。バレーボール部では中国大学リーグ1部昇格に向けてチームのメンバー

と協力して日々練習に励み、2年次のときに目標を達成することができました。部活のキャプテンを務めながら、消防士になるという夢を叶えるために学内で開講されている「公務員養成講座」を活用して公務員試験対策にも力を入れました。

私は、1年次のときに人命救助にあたった経験があり、救急隊の方たちのたくましく、自分がこれからはいかに頑張りたいかと確信しました。3年次の秋頃から過去問を中心に、勉強を開始。講座ではさまざまな知識を身に

つけられただけでなく、同じく公務員を目指す仲間たちと切磋琢磨することで「絶対に公務員になる」という強い思いが湧きました。文武両道と口で言うのは簡単ですが、

message

何事も恐れず
チャレンジすることで
可能性は広がる



原田 萌愛さん
2024年3月メディアビジネス学科卒業
広島県/広島皆実高校出身

広島経済大学には、自分を成長させるチャンスがたくさんあり、全力でサポートしてくれる教職員がいます。私はそのチャンスを活かしてプロジェクト活動や大学祭実行委員長、学外での活動に挑戦したことで夢を見つけ、実現することができました。

興動館プロジェクトの一つとして「スポーツの持つ無限の可能性を肌で学びたい」と思っていた私にとって広島経済大学は、理想的な環境でした。興動館プロジェクトの一



押川 梨沙さん
2024年3月スポーツ経営学科卒業
広島県/五日市高校出身

3年次には、プロジェクトリーダーを務めました。リーダーとしてメンバーのモチベーションを上げることも大切な役割です。どうすればみんなが同じ方向を向いて取り組めるのか悩むこともありましたが、一人で抱え込むのではなく、コーディネーターや先輩方、メンバーにも相談することが大切だと気づきました。私自身メンバーの一員のときに周りに助けてもらった経験があったからこそ、人を頼り、チームで動く重要性を理解できたのだと思います。

卒業後は東京で、展示会やスポーツイベントなどの装飾・施工管理に関わる総合ディスプレイ業の企業に就職します。興動館プロジェクトなどでの経験をを通して、多くの人の笑顔を支える仕事がしたい、そのための非日常空間や感動を提供できる空間づくりに携わりたいと考えたからです。大学で身につけた行動力を強みに、社会に出て誰よりも積極的に行動できる存在であり続けたいです。

message

社会人になっても
積極的に行動できる
存在でありたい

随想

中学校や高校の教師を育てる授業を担当する私は、自ずと学習指導要領に注目する。その最新内容は、予備困難な時代の中、学校には、子供たちへ、変化に積極的に向き合い、他者と未来を創る力を育てようという求めているのだと理解できる。

未来を創るには?



教養教育部 嵐森 裕暢 教授

あなたも感じないですか? そこで私はゼミで、将来子育てをするかもしれない学生として、これからの学校はどう在ればよいか、子供たちはどう勉強し生きてゆけばよいかについて、自分の考えを紹介し仲間の考えを手がかりにしながら、(つまり対話しながら)コラムを書いて、地元の新聞社に投稿する取り組みを続けている。

誰かの投稿が新聞に掲載され、ゼミでよろこび合い、本学のオフィシャルサイトに紹介してもらい、市民から紙上でお返事を頂くことまであって、ささやかながら自分たちは、なにか新しい未来を創っているのかなという感じを抱く。

(教職入門、中学社会科教育法I、道徳教育指導法、公民科教育法、教職実践演習(中・高ほか))

挑む

2023年度 興動館教育プログラムを振り返る

～プロジェクト活動が熱い～

他プロジェクトともコラボ 地域の食品ロス削減を目指す

祇園から食品ロスなくそうプロジェクト



レシピの実演をするプロジェクトメンバー

「そうめん」を実演。プロジェクトリーダーの繁浪駿汰さん(取材当時、ビジネス情報学科3年・島根県/出雲商業高校出身)は「家でこの取り組みをしてみたいよ」など声を掛けていただき充実したイベントを開催できました。今後は関心を持っていない方へのアプローチも考える必要があると感じました」と力強く語った。

祇園地域の方々に食品ロスの問題について理解を深めてもらうと2021年度にスタート。家庭における食料資源の有効利用を伝える啓発活動などを通じて食品ロスを削減することで、地球温暖化抑制の一助になることを目指している。2023年度は10月に「食品ロス削減啓発パネル展」を開催。食品ロスに関するクイズコーナーやパネルのほか、カフェ運営プロジェクトと共同でエコクッキングレシピの考案に取り組んだ。当日は夏に余りがちなそうめんをトマトジュースでアレンジした「トマトジュリー

新しいことにチャレンジ 小学校で防災に関する授業も

武田山まちづくりプロジェクト



紙芝居を使って避難の大切さを児童に呼び掛けた

当時、経営学科3年・岡山県/新見高校出身)は「普段の山の保全活動とは違う内容で、どのようにしたら子どもたちに伝わるのか考え、何度もリハーサルを行いながら準備しました。言葉だけでなく、紙芝居を使用したことで、子どもたちと一緒に逃げよう」の一声で命を救う可能性があることを理解してもらえたと思います」と振り返った。

従来の活動についても工夫を凝らし、子どもたちと武田山の自然について学ぶ「Go Mountain」では、安全面に考慮したやり方に変更して、多くの小学生に参加してもらうことができた。また、これまでプロジェクトメンバーだけで作製していた門松づくりでは、地域の小学生に参加を呼び掛け、一緒に巨大門松作りを体験してもらった。

山口さんは「今後も武田山の自然を守り、街づくりに活かしながら、地域の人とのつながりもより一層強めていきたいと考えています」と力を込めた。

祇園地域のシンボルとして親しまれる武田山の自然を守り、里山を通じたまちづくりに取り組んでいる。2023年度は「新しいことにチャレンジ」をテーマに、活動の幅をさらに広げた。11月には初の試みとして、広島市立山本小学校4年生約160名を前に、防災に関する授業を実施。2014年8月に発生した「平成26年8月豪雨」の教訓を伝える紙芝居を読み聞かせ、森林の手入れの大切さも呼び掛けた。講師を務めたプロジェクトリーダーの山口貴巨さん(取材

磨く 2023年度ゼミ活動を振り返る

～理論と実践のゼミ～

本学では、1年次からゼミを必須科目として開講し、4年間を通じて少人数制のゼミナール教育を展開している。授業で学んだ理論を実社会でどのように活かせるか、各ゼミでは実践を重視し、企業や行政と連携した活動に力を入れている。2023年度の活動の一部を紹介する。

経営学科竹林栄治ゼミは、J-R芸備線の利用促進策を提案する報告会を開催。J-R芸備線を体験乗車した学生たちは中国運輸局やJ-R西日本、県の担当者とも意見交換し、線路を活かした観光施策などを話し合った。経営学科細井謙一ゼミは、カゴメ株式会社執行役員を招き「トマトの会社から野菜の会社に」をテーマにカゴメのマーケティング活動に関する改善案を発表。高評価の一方、実行する際に不足している点などの指摘もあり、学生にとって有意義な

時間となった。ビジネス情報学科関隆教ゼミは、森永乳業株式会社の人気アイスクリーム「ピノ」について「若年層の購入頻度を高めたい」という課題に対し学生たちは、約9ヵ月かけ市場環境の分析、STP分析、4P分析などの手法でデータ分析を行い、マーケティングプランを提案した。

メディアビジネス学科宮地英和ゼミは、横川商店街(広島市西区)と株式会社ポップジャパンと連携し、かよこバス復元・横川駅リニューアル20周年記念イベント「かよこバス祭り」を彩る旗のデザインを考案。幟旗には学生たちが考えたキャッチコピーも描かれた。このようなアクティブラーニングの学びを通じて、学生たちは専門的な知識を深めている。今後も多角的な視点を磨く活動は続いていく。



経営学科 細井ゼミ



経済学科 竹林ゼミ



メディアビジネス学科 宮地ゼミ



ビジネス情報学科 関ゼミ

私のゼミナール 雑感

95

経営学部 慶太 棚橋 教授

私のゼミは、ESGを投資家(資本市場)の視点で分析し、企業の経営や経営管理について学ぶゼミである。ESG「環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)」の3つの頭文字をとった言葉であり、持続可能な社会の実現に向けた企業の取り組みを指す。近年SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みが世界中で加速しており、ESGへの関心も高まっている。ESG投資は企業の持続可能性を重視した投資手法である。会計の授業で学ぶ財務情報は過去の経営成績を示すが、ESGに関する企業

ESG投資から企業経営を考える



び、10年20年応援したい企業を見つけ、そして投資

大変な作業である。しかし、学び始めたばかりのゼミ生にとって結構

程度参加するこのコンテスは、ESGへの取り組みを軸に株式銘柄を選定し、戦略に関する投資ポートフォリオ(100億円の仮想投資資金)を構築してレポートを作成、その内容と競うものである。初級簿記I・II、大学入門ゼミ、興動館入門ゼミ、PRゼミ、ゼミI・II、

ながら、本コンテスト参加を通じて金融の最前線における学びや実体験を積み、投資について、そしてそれが導く未来社会について考える貴重な機会となっていると思う。実際、ゼミ生の中には、就活において、企業の採用担当者に対し同社のESGについて正々堂々と意見・議論するなど、他学生や、ESGの観点から関心ある社会問題を卒業論文のテーマに考える学生もでてきており、頼もしい限りだ。このコンテスも、来年度もチャレンジしていきたいと考えている。



メディアビジネス学部メディアビジネス学科 阿部 純 准教授

「当たり前」を見直すライフスタイル 思想はどこへ向かうのか

私は、2012年に大学での職を得て、東京から尾道に越してきた。その時に近所の人から言われたのが「あなたも避難民?」という言葉だった。当時の尾道は、東日本大震災の余波と原発事故の影響から逃れるために避難してくる人も少なくなく、そのコミュニティの中では「安全」な食やインフラを求める声を聞く機会も多かった。その環境に身を置く中で着想したのが、今取り組んでいる「良い暮らし」を問うライフスタイル研究である。

21世紀に入ってからの「ku:nel」や「天然生活」、「Lingkaran」といったライフスタイル雑誌が登場し、「いい暮らし」というフレーズが流布するくらいに一種の「暮らしブーム」が起こっている。この「ブーム」の一つとして、私が着目したのが自分(たち)の暮らしを自分(たち)で語り直す小さな紙メディア=地域文化誌の存在だった。地域文化誌は2011年前後の間に日本各地で発行され、そのどれもが似たような視点で内容を構成している点が興味深い。例えば刊行目的として、「普通」や「当たり前」を問い直すことが掲げられ、料理や掃除の所作の一つ一つを「伝統」的に捉え直し、観光ガイドに載らないような小さな商店や工場を取材しながら、

こう言うてよければ「普通の人」の表情が見えるようなレポートをまとめている。雑誌のレイアウトも、余白多めの配置に、ほかの多い写真を使用するなど、先の「ku:nel」に似ていることも特徴の一つである。こういった地域文化誌を発行する流れが、全国で同時多発的に起こったこと、このこと自体を思想として、社会的にどのように捉えていくか(とここから派生する諸課題)がこの10年の私の研究生活の大半を占めている。日本では同時期に、平成不況の長期化や女性の社会進出、そして移住の機運も高まるなどさまざまな社会変化も起こっており、これらの背景がライフスタイル雑誌が伝える「良い暮らし」像とどのように交差しているのか、今後考えを深めていきたい。

先へ

2023年度 進路・就職支援を振り返る

～万全の体制で学生たちを支える～

多様化する社会変化にも柔軟に対応し、学生に寄り添う

2024年3月卒業生の就職率は、96.3%（就職希望者）3月15日現在）となった。本学のキャリアセンタ... 重視し、本学独自の「オーダーメイド」の就職支援に、教職員が一丸とな...

3年次後期には「オーダーメイド」の就職支援の根幹をなす全員面談を実施しており、学生一人ひとりのパーソナリティを理解すること...

2024年度 進路・就職支援プログラム 2024年4月1日現在. Table with columns for month, program name, and target audience.

2024年3月卒業生 主な就職先一覧 (順不同)

- 建設業: 島根電工(株), セキスイハイム(株), 積水ハウス(株), ソルコム(株)
製造業: アイコム(株), 味の素(株), アンデルセングループ(株), 伊藤園(株)
卸売業: 青山商事(株), 株式会社アリス, イオン(株)

「東京ビデオフェスティバル 2024」に入賞. メディアビジネス学科山田哲敬ゼミの学生2名が制作したドキュメンタリー「神楽」とも生きる「次世代が継ぐ伝統の舞」が「東京ビデオフェスティバル2024」において応募総数98作品の中から入賞作品に選ばれた。

広島東税務署から 納税表彰感謝状を贈呈. 本学の橋信之副学長が、広島東税務署から納税表彰感謝状を贈呈された。長年「租税論」及び「財政学II」の授業において、広島国税局幹部による特別講義を実施。租税教育の重要性を...

「2024年ヒロシマ・メッセンジャー」に選出. 2023年12月22日、広島市役所本庁の市長公室において、松井一實市長より、ヒロシマメッセンジャーの委嘱状を手交する委嘱式が開催された。本学から、外和田かなさん(経済学科3年・広島県/海田高校出身)と奥内信也さん(ビジネス情報学科1年・広島県/呉商業高校出身)がカナダ・モントリオール市担当として選ばれ、就任した。

「令和6年能登半島地震」に伴う 学内募金活動を実施. 本学では、1月1日に能登地方を震源とする地震で被災された方々を支援するため、被災地の一日でも早い復興の一助になればと願い、学友会を中心に1月10日から1月19日まで募金を呼び掛け、1月31日まで学内募金活動を実施した。

日本学生野球協会 表彰選手. サークルニュース. 2023年度日本学生野球協会表彰選手に、硬式野球部の祢屋亮太さん(経営学科4年・岡山県/倉敷商業高校出身)が選ばれた。記念の盾を手には、自分一人の力ではなく、苦しいときも支えてくれたチームメイト、いつも声をかけてくださった監督をはじめとする野球部関係者の皆さま、15年間野球を続けてくださった両親のおかげだと思っています。野球部で培った人間力で、今後は多くの人の未来を支え貢献できる社会人になっていきたいです。本学からの表彰選手は2021年度以来14人目。

陸上競技部が第67回 中国四国学生駅伝競走大会で優勝. 2023年11月26日、山口市で開催された第67回中国四国学生駅伝競走大会において、陸上競技部が2年連続21度目の優勝を果たした。本大会には、オープン参加の2チームを含む15大学17チームが出場。本学は1区4位から始まり、3区の藤井選手が先頭を追い抜き、4区の東選手が後続チームを56秒引き離し、最終走者の横田選手も先頭を譲らず優勝のゴールテープを切った。2区小石原選手、4区東選手、5区田辺選手、6区横田選手、4名が区間賞を受賞。4区で区間賞を獲得した東選手は東川賞(MVP)に選ばれた。この優勝により、10月に開催される第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走への出場が決定した。

第57期 学生会役員. 会長: 岡崎源乃丞(副会長: 高杉凜) 副会長: 藤川健太(財務部長: 折出耀) 書記部長: 末廣愛菜(厚生部長: 道々藍) 情宣部長: 佐々木真真(渉外部長: 椿哉風) 文化局長: 山崎誠(文化局長: 藤井慎太郎) 大学祭実行委員長: 栗原瑞季

サークル戦績. 陸上競技部: 大阪マラソン2024出場
空手道部: 内閣総理大臣杯第51回全日本空手道選手権大会(男子団体組手) 女子団体組手) 出場
サッカー部: 第38回デンソーカップチャレンジサッカー福島大会 嘉見秀人、野田朝大、森川瑠空(中国選抜チームとして出場)

ヒロシマ・メッセンジャーに就任した 外和田かなさん(左)と奥内信也さん(右). 広島市等が行う行事への参画、司会進行や学校、公民館等での広報活動などに携わる予定だ。

人事

役職就任

〔令和6年4月1日付〕

◆教育職

〔ビジネス情報学科主任〕
溝下博

新任

〔令和6年4月1日付〕

◆教育職

担当科目
必須英語B Iほか
講師
光森 幸子

担当科目
日本語文章表現ほか
教授
三根 直美

担当科目
実践地域経済論ほか
准教授
加藤 博和

担当科目
地域経済論ほか
助教
江成 稜

担当科目
マクロ経済学ほか
助教
新谷 昌也

担当科目
生産管理論ほか
助教
藤谷 麻菜

担当科目
環境経済学ほか
助教
三吉 春香

昇格

〔令和6年4月1日付〕

◆事務職

〔センター長〕学務センター
〔教務担当〕向井岳司

退職

〔令和6年3月31日付〕

◆教育職

〔教授〕岡田 未太郎・末永 菜穂子・
田浦 元・長谷川 泰志・福居
信幸・藤口 光紀・藤谷 則夫
〔准教授〕坂間 十和子・中村
隆行〔助教〕Mark J T
ankosich〔講師〕田坂
尚子・R. A. Forrest

事務職

〔学務センター長〕教務担
当〕竹内 啓二〔入試広報セン
ター次長〕沖村 一〔キャリア
センター参事〕石谷 潤治



入試広報センター
三浦 颯太



キャリアセンター
花田 洋平



学務センター教務課
尼子 永実



講師
光森 幸子



講師
羽尾 将司

2024年度 入学試験結果

2024年度 総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、
共通テスト利用選抜 入学試験結果報告

Table with 5 columns: 入試制度, 志願者数(人), 受験者数(A)(人), 合格者数(B)(人), 競争率(A/B)(人)

オープンキャンパス2024情報



オープンキャンパス2024を開催します。学部学科説明会や個別相談など
充実したプログラムを用意して皆さまをお待ちしております。
※最新の情報は本学オフィシャルサイトでご確認ください。

6/16(日)・7/27(土)・7/28(日)・8/25(日)

中四国、県内遠方からは
無料送迎バスを運行します(要予約)
〈問い合わせ先〉入試広報センター TEL.082-871-1313

2024 ひろしまフラワーフェスティバル参加のお知らせ

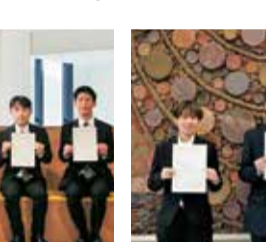
5月3日(金)・4日(土)・5日(日)
今年もひろしまフラワ
ーフェスティバルに“興動人
ひろば”で参加します。学
生を中心としたさまざまな
催しを用意し、皆さまの来
場をお待ちしております。
ぜひお越しください!

BOOKS

◆広島経済大学経済研究論集 第46巻 第3号 (2024年3月)
宜名眞勇教授 退任記念号
市町村産業連関分析—広島県広島市を例として— Tee Kian Heng (群馬大学教授)
地方税務の広域化・共同化の効果 —Difference in Differencesによる分析— 小野 宏 (大分大学准教授)
欠損値の処理方法の違いによる予測精度の比較 得津 康義 (教授)
広島お好み焼きのバリエーションに関する試論的考察
—構造、機能、機能代置— 細井 謙一 (教授)
無申告加算税における不適用制度の研究
—主張・立証責任の観点から— 福田 正太郎 (准教授)
発展する企業の力強い文化—戦略と組織の視点から— 岡本 康昭 (教授)
経済研究論集 第46巻 総目次
◆広島経済大学研究論集 第46巻 第3号 (2024年3月)
eラーニングにおける他者の存在感の効果
—社会的性格特性との関連— 宮岡 弥生 (教授)
時本 真吾 (自由大学教授)
時本 楠緒子 (高美学園大学 非常勤講師)
坂水 貴司 (助教)
英和辞書「首楞嚴経」所載「首楞嚴神呪」の字音点
研究ノート
イングランドの部活動(1/2)
—誕生から「学校スポーツパートナーシップ」へ— 内海 和雄 (名誉教授)
研究論集 第46巻 総目次
学生の皆さんへ
「論集」には先生方の最新の研究成果が掲載されています。最新号は、1号館玄関・
図書館・メディア情報センター等に置いてありますので、各自自由に持ち帰ってくだ
さい。また、バックナンバーをご希望の場合は、地域経済研究所までください。



奨励賞受賞者



最優秀賞・優秀賞受賞者

〔奨励賞(7編)〕
喜多健士郎(経済学科3
年)・竹田祐太・坂本蒼・鳴
井太陽(経営学科3年)
〔論文題目〕女性の社会進
出(指導教員 棚橋慶太)
濱本翔大(経済学科3年)
〔論文題目〕電子機器がも
たらす学生への影響(指導
教員 細井謙一)
服部謙伸(経営学科3年)
〔論文題目〕飲食店の店内

〔論文題目〕Chat GPTを活
用した観光情報の提供とプ
ロンプトエンジニアリング
を活用した観光情報抽出
(指導教員 石野重耶)
照屋琴実(スポーツ経営学
科3年)
〔論文題目〕移住者とソ
シヤルキャピタル(指導教
員 岡安功)

〔宅地建物取引士 藤原裕
大(経済学科4年)・植田貴哉
(経営学科4年)・城下優真
(経営学科4年)・新田一希
(経営学科2年)
●TOEIC(600点以
上) 五島夢実(経営学科4
年)・大年智也(メディアビ
ジネス学科4年)・外和田かな
(経済学科3年)・HONG
THIMAILINH(経済
学科3年)・高原輝(スポー
ツ経営学科3年)・植田光紀(

〔論文題目〕育児期女性の運
動・スポーツ実施に関する
研究(指導教員 岡安功)
佐々木穂(ビジネス情報学
科4年)
〔論文題目〕AIによる企業



学長表彰者



学部長表彰者

〔論文題目〕歌詞が与える影
響(指導教員 坂水貴司)
山縣亮太(経営学科3年)
〔論文題目〕広島県における
赤色とAIDMAの法則の
Attention段階の関連性
(指導教員 細井謙一)
木村孔勇(経営学科3年)
〔論文題目〕日本の農業の
課題と来訪型農業の可能性
(指導教員 細井謙一)

〔論文題目〕AIによる企業
〔論文題目〕Chat GPTを活
用した観光情報の提供とプ
ロンプトエンジニアリング
を活用した観光情報抽出
(指導教員 石野重耶)
照屋琴実(スポーツ経営学
科3年)
〔論文題目〕移住者とソ
シヤルキャピタル(指導教
員 岡安功)

2023年度 後期資格・能力等表彰者

〔学年は表彰当時のもの〕

〔指導教員 藤原久嗣〕
島田清之佑(経営学科3
年)
〔論文題目〕歌詞が与える影
響(指導教員 坂水貴司)
山縣亮太(経営学科3年)
〔論文題目〕広島県における
赤色とAIDMAの法則の
Attention段階の関連性
(指導教員 細井謙一)
木村孔勇(経営学科3年)
〔論文題目〕日本の農業の
課題と来訪型農業の可能性
(指導教員 細井謙一)

〔論文題目〕歌詞が与える影
響(指導教員 坂水貴司)
山縣亮太(経営学科3年)
〔論文題目〕広島県における
赤色とAIDMAの法則の
Attention段階の関連性
(指導教員 細井謙一)
木村孔勇(経営学科3年)
〔論文題目〕日本の農業の
課題と来訪型農業の可能性
(指導教員 細井謙一)

知の系譜 No.58

リンカーン「ゲティスバーグ式典。1863年11月19日ペンシルバニア州
ゲティスバーグ国民墓地開所式と エドワード・エバレット議員式辞、
リンカーン大統領演説」 1863年11月22日発行 ワシントン刊
Lincoln, Abraham, 1809-1865.
The Gettysburg Solemnities: Dedication of the National Cemetery at Gettysburg,
Pennsylvania, November 19, 1863. Washington: Published at the Washington Chronicle Office, [22 Nov. 1863.]

「人民の、人民による、人民のための政治」。この有名な一節で知られるリンカーンのゲティスバーグ演説は、南
北戦争中の1863年、ペンシルバニア州ゲティスバーグで行われた式典での演説である。本書はその式典から3日
後にワシントン・クロニクル紙が発行した小冊子で、ゲティスバーグ演説を掲載した初めての別刷り印刷物とされている。
リンカーンの大統領時代に起きた南北戦争は、奴隷制廃止を求める北部と奴隷制を擁護する南部が対立した内戦で、1861年から1865年まで続
いた。ゲティスバーグは3日間で5万人以上の死傷者を出した最大の激戦地であり、この戦いから4カ月後、戦死者を慰霊するための墓地が造
られ、その開所式でリンカーンは演説を行った。
本書は16頁立ての小冊子で、その大部分はエドワード・エバレットの式辞に割かれており、リンカーンのゲティスバーグ演説は、時間にしてわ
ずか3分足らずの短いものだったため、小冊子の最後の一段落に全文が詰め込まれている。当時、この演説は大きな評判にならなかったが、その
後、民主主義の精神を示す言葉として、アメリカ史上もっとも有名な演説のひとつとなった。この小冊子は、世界で5部しか現存が確認されてい
ない大変貴重な史料である。

保護者様向けメールマガジン配信中 (通称:HUE(ヒュー)メール)

本学では、広島経済大学の最新情報を月初めにメールマガジン
で配信しています。ぜひ、ご登録のうえご覧いただき、広島経済大
学及び学生たちのことを知る一助にいただければと思いま
す。保護者の皆さまの多数のご登録をお待ちしております。登録方
法はオフィシャルサイトから「保護者の方」をクリックしてください。